

今月号の内容

齊藤日軌猊下
晋山式の報告(1面)
法華経のお話②(2面)
聖徒団を訪ねて(3面)
よろこび法話(4面)

発行所
〒873-0002
大分県杵築市南杵築1539番地
妙経寺内

新聞智雄会長
日蓮宗霊断師会事務局
電話 0978-62-3570
FAX 0978-62-3571
編集人 松本恵昌
購読料 1部 105円
毎月1回1日発行

日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

2011年(平成23年)5月1日(日)
5月号

聖徒のための情報誌

別格本山 開本山妙顯寺
第四十九世齊藤日軌猊下
晋山式 報告

晋山式 報告



去る平成二十三年四月十三日、栃木県佐野市、別格本山佐野妙顯寺において、日蓮宗霊断師会総合研究所所長・齋藤朋久(日軌)猊下の晋山式が、身延山総務・潮師法縁長本山瑞輪寺貫首井上日修猊下、本山鏡忍寺貫首原日透猊下の御来座のもと、栃木県宗務所所長田法璋僧正、当会総局長建光行僧正を副導師に、無事厳修された。妙顯寺は、宗祖日蓮大聖人の御薫陶を頂いた九老僧・天目上人が永仁2年(1294)に開創した寺院である。寺には伝教大師作と伝えられる鬼子母神像が勧請され、本堂には日蓮大聖人の茶毘所灰および御真骨が奉安されている。往時は30もの宿坊があり、600人の学僧が行学二道に精進していた北関東に誇る由緒、格式のある名刹である。齊藤猊下は、北海道の本要寺住職の傍ら富良野市のBBS会会長・社会福祉・防犯協



災され、避難所として懸命に活動中の善慶寺住職三浦惠伸僧正(本会総合研究所副所長)からの「こんな時にこそ被災地の復興、日本の再生のため日蓮大聖人の教えを妙顯寺が正法の大拠点として弘めるためにも、晋山式はきちんと厳粛に執行すべき」との言葉に励まされ奉行するに至った。この度の表賀の一部は被災地に復興支援金として送る。清宴の席には、檀信徒をはじめ、全国より日蓮宗本山会、潮師法縁、栃木県管内寺院、日蓮宗霊断師会会員等々、齊藤猊下と日々親交のある各上人が参集。井上日修猊下、原日透猊下、佐野市長岡部正英氏よりお祝いの御言葉、総局長建光行僧正と本要寺代表中川一郎氏より激励の言葉をいただいた齊藤猊下は、妙顯寺の寺門繁栄と宗門興隆、教学研鑽のため御題目の死身弘法に精進することを誓われた。

聖徒の体験談

九死に一生の体験

私はこの度、九死に一生の体験をいたしました。お題目に因つて生かされていくことを実感しながら日々を送らせていただいております。私とお題目のご縁のはじまりは、私がマツサージ指圧師をしていた時でした。患者様の中に僧侶の方がいらつしゃいました。ある日、治療中に、その方から、法華経とお題目の大切さを御指導いただきました。興味をいだいた私は、身延で写経をしたりするなど、少しずつ法華経を学ばせていただきました。結婚後は様々な病気に罹り、病院に行きたくが多くなりました。そこで、感通寺様の信者でもあった蜂谷さんという方に、霊断法と俱生神月守のお話を伺い、御住職から指導をいただき、俱生神月守の着帯と毎月一日の盛運祈願祭への月参りを十年以上、妻と心がけてまいりました。しかしながら、平穩に暮らしている時ほど、日々の健康というものに対して感謝は薄らぐものであります。去年の三月十一日、早朝でした。前日から仕事疲れもあったのか、熟睡していると突然、胸と頭の痛みと苦しみにおそれ、目を覚ました。しばらく胸を押した

り摩ったりしました。が、一向に治まる様子もなく、救急車で近くの病院に運ばれて診察を受けましたが、その結果は「大動脈解離」でした。緊急を要する手術でした。その病院では対応することができないために、救急車による緊急の転送手配をしていただき、なんとか手術をしていただくことができました。これは妻から聞いた話ですが、この時妻はすぐに感通寺様に連絡。お寺には副住職がおられ、すぐに霊断法が行われました。結果は、「一命をとりつなく」には、御題目におすがりするしか方法はないう。又、手術の後はお守りを枕の下に置いてください。毎日、私も祈願します。」というお言葉をいただきました。しかし家族に話すには、あまりにもつらい内容であったと後日伺いました。その日から、妻はお寺に日参しました。毎日、四十分の唱題修行を終えると、妻は自分の手に御祈禱していただき、その足で病院にきて、ICUにいる私の手を握り、心の中でお題目を一生懸命、私の心身に吹き込んでくれているそうです。そのようなこととは露知らず、私は、意識が混濁している状況のなかで不思議な夢を見ました。それは身延山の夢です。病院職員の皆さんと身延山に旅行へ行った私は、本堂にお参りをし、隣接する施設で食事をするなど、楽しい一時を過ごしていました。身延山での小鳥のさえずりと風を体いっぱい感じておりました。特に心に残っていることは、帰りのバスの中で体調が悪くなった私に、看護士さんが懇切な介護をしてくれたこととです。バスの中で心身をスッキリとさせていただいたと思つた瞬間、意識がハッキリと戻りました。手術から三週間後、意識の戻つた私の前に夢の中で介護をして下さった看護士さんが実際に居ました。夢の中で助けていただいた方が、現実にも私の目の前に居ることの不思議。その方は以前、同じ職場で働いた方でありました。私は助かったんだ！ 助けられただけ！ 生かされていくことの喜びを感じました。目覚めからの私は、想像以上の回復力をしめし、担当のお



感通寺聖徒団
米良 喜久男

佛壇駒形屋
〒070-0054 旭川市4条西5丁目2番3号
TEL(0166)22-4643 FAX(0166)22-4672
代表取締役社長 駒形 貞洋
各種寺院用仏具取扱い・修復等もお問合せ下さい
仏壇・仏具・数珠・線香・ローソク各種
お仏壇クリーニング・修復も行っております
お気軽にお問合せ下さい
全国発送承ります

津軽宇田山 閻魔寺
〒030-1403 青森県東津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712
住職 工藤 堯幸
副住職 工藤 堯慎・修徒 工藤 堯顯

日蓮宗 東光山妙正寺 聖徒団
妙正寺聖徒団護持会会長 太田 鉄男
5月15日(日)午前11時 七面様大祭 伊豆法難会
毎月1日午前10時「盛運祈願会」
妙正寺聖徒団 団長 関 龍雄
〒071-1423 北海道 上川郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714 FAX 0166(82)2914

いかされるよろこび 美濃乃國 常唱寺 聖徒団
〒501-3734 岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

感通寺聖徒団団長 日蓮宗霊断師会会長 新聞 智雄
〒162-0044 東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782 FAX 03-3208-7966

法華経のお話②



総合研究所主任 塩入 幹丈

(一)法華経は十巻

三部経と言えは一般的には「無量寿経」「観無量寿経」「阿彌陀経」の浄土三部経のことでしょう。

法華経の場合は、ご祈祷でお馴染みの「一部八巻二十八品」から一部経というイメージが強いのではないでしょう。

しかし実は法華経にも三部経という括り方が古来より伝えられています。



霊鷲山 (りょうじゆせん)

草庵での毎朝のご修行は一日に一巻、十日で一巡という形式だったと伝えられています。

(二)法華経のプロローグ

法華三部経の開幕を告げるお経(開経)、それが「無量義経」です。

「德行品第一」「説法品第二」「十功德品第三」の三品(三章)一巻で成り立つこのお経は、続く妙法蓮華経序品第一と共に、法華三部経におけるプロローグ(序分)としての役割を担っています。

(三)無量の義(ただしきこと)

「無量義経」の無量とは、俗に八万四千、つまり数え切れないほど膨大な数にのぼるお経のことである。

「諸の菩薩のために。説大乘経の無量義・教菩薩法・仏所護念」と名づけるを説きたまえり」とあり「無量義経」が「妙法蓮華経」の魁たることが明かされています。

この「無量義・教菩薩法・仏所護念」の教菩薩法・仏所護念の部分は「菩薩(他者の幸せのために生きる仏道修行者)のたのみの教え」「仏様が護り念じている教え」という意味で、無量義経のいわば別名。つまり

「無量義経、またの名は教菩薩法さらにまたの名は仏所護念というお経」という意味となります。



霊鷲山頂

の無は「妙法蓮華経」前半の仏様の教えを、量は後半の仏様の教えを暗示しているのです。

(五)本より迹を垂れる

震旦では偉大なる統治者(聖人)の世のため人のための具体的な行いを述(せき・しゃく)と言いました。

印度のお釈迦様は、いわば寿量(ご本佛様がこの地球で具体的に活動するため)に顕現した存在、ご本佛様の迹による仏様です。

ゆえに震旦の仏教者たちは「妙法蓮華経」の前半の仏様のことを指しているのです。

実は「妙法蓮華経」は前半と後半で教えを明らかにし、「妙法蓮華経」へと導くお経：故に無量義経と名付けられるわけです。

さらに無・量・義の三文字それぞれに、実はあとの「妙法蓮華経」の内容が暗示されたものとなつていのです。

「般若経」「阿彌陀経」「華嚴経」等々の始どのお経の教えと同一仏様です。

(六)無常の仏様と永遠の仏様

対して後半、従地涌出品第十五からの教えは、印度のお釈迦様の本源たる寿量(ご本佛)のお釈迦様。全てのお経中唯一、ただこのパートのみに登場する仏様です。

空とは、万物は全量(ご本佛)のお釈迦様。全てのお経中唯一、ただこのパートのみに登場する仏様です。

は平等なる真理だという考え方です。万物の背後の真理を重視する教えです。

(七)お経の心たる義

無量義の無と量は「妙法蓮華経」の述門と本門の教えを暗示するものでした。

この教えは経文として文字となつたもので、

「妙法蓮華経」の述門と本門の教えを暗示するものでした。

「妙法蓮華経」の述門と本門の教えを暗示するものでした。

「妙法蓮華経」の述門と本門の教えを暗示するものでした。

「妙法蓮華経」の述門と本門の教えを暗示するものでした。

「妙法蓮華経」の述門と本門の教えを暗示するものでした。

「妙法蓮華経」の述門と本門の教えを暗示するものでした。

法華三部経

無量義経 一巻三品

德行品第一

説法品第二

十功德品第三

妙法蓮華経 一部八巻二十八品

序品第一

方便品第二

譬喩品第三

信解品第四

薬草喩品第五

授記品第六

化城喩品第七

五百弟子受記品第八

授学無学人記品第九

法師品第十

見宝塔品第十一

提婆達多品第十二

勸持品第十三

安樂行品第十四

従地涌出品第十五

如来寿量品第十六

分別功德品第十七

随喜功德品第十八

法師功德品第十九

常不軽菩薩品第二十

如来神力品第二十一

嘱累品第二十二

薬王菩薩本事品第二十三

妙音菩薩品第二十四

観世音菩薩普門品第二十五

陀羅尼品第二十六

妙莊嚴王本事品第二十七

普賢菩薩勸発品第二十八

仏説観普賢菩薩行法経 一巻

※「↑」は、今回の解説している経です。

聖徒団を訪ねて

春彼岸海上運行施餓鬼水向供養祭

聞法寺内 工藤 堯顯

去る三月二十四日、青森県外ヶ浜町、聞法寺聖徒団（工藤堯幸団長）にて、第三四回「春彼岸海上運行施餓鬼水向供養祭」が行われた。

聞法寺は、青森県津軽半島最北端地、人口七千人の小さな漁村外ヶ浜町の海岸線沿いに有り、日蓮大聖人の直弟子（六老僧）蓮華阿闍梨日持上人が蝦夷（北海道）に船出をした霊場でもある。

聞法寺では、毎年三月十八日〜二十四日の一週間、毎朝五時半から、聖徒も含め十人以上で水行・朝勤修行を行い、中日には、「水子観音供養祭」、最終日の二十四日には、目の前の陸奥湾に漁船を使つての「海上運行施餓鬼水向供養祭」を行っている。

本年は、三月十一日に発生した未曾有の地震、東日本大震災で津波・火災・事故等で尊い命を失つた方の供養も合わせて行われた。

「海上運行施餓鬼会」の当日は、天気予報では悪天候で海も荒れる予想であったが、朝から天気も良く、海も波一つ立たない晴天に恵まれた。大震災の影響によるガソリン不足で例年の半分ほどの聖徒数であったが、中には二時間ならんでガソリンを入れて来られた聖徒の方もいるなど、人数の少なさを感じさせない位であった。

午前十時半より、本堂において団長導師の下、「施餓鬼供養法要」を厳修。参加者全員が、堂内を三周する幡・水・香の供養をし、提婆品を最初から訓読で読み、萬霊に供養を捧げた。そ



して副住職を修法導師に「海上運行安全祈願」を行い、法要終了後、魚船に乗り込み海上運行を行った。三隻の船に分かれて、海上に於いてたくさんの千団子、果物、お菓子などのお供物と二千枚以上の紙塔婆の流し供養を行い、各船上で萬霊に向けての供養、海の安全、大漁を願う修法が行われた。船に乗りきれなかった聖徒の方々は、岸辺で一心に太鼓を叩き唱題して祈りをささげ、無事何事もなく「海上運行施餓鬼水向供養祭」を終了したのであった。

団長上人は「今は亡き師父上人にあまりにも不慮の災難が降りかかり、延命治療の祈願を込めて、三人で行つた施餓鬼供養が始まりました。『可延定業御書』に、早く心ざしの財を重ねて、いそぎいそぎ御對治あるべしとあるように、この聖訓を実行するには、頼る沢山の諸霊魂に対する供養より他に對治する方法がないと思つたのです。師父は、私が大学を卒業した年に

交通事故に巻き込まれ、五日間の命と宣告されましたが、三か月後には、回復し復帰できたのでした。しかし安心したのもつかの間、三年後の夏に膵臓癌を患いました。師父は霊断師では無かつたので、今まで着帯していなかつた俱生神月守を着帯してもらい、五種護符を飲んで頂き、ひたすら唱題と供養に専念した結果、それから十七年の寿命を頂き、八十一歳で遷化されました。この施餓鬼供養は、師父上人に延命を与えただけでなく、大きな功德の御蔭で、お寺の前の海上では、三十余年間事故無く、大漁が続いています。今では、施餓鬼供養に参加する聖徒の数も毎年増え続け、一大行事となつていっています。『報恩抄』に『何か況や仏法を習わん者、父母師匠国恩を忘るべしや。花は根に返り、眞味は土に留まる。』とあるようにお施餓鬼の功德は甚大です。と、この施餓鬼供養の意味合いをお話されました。

次の日、第一回目から、船頭をして宮田博光さんの船上げ場を見に行つたところ、団長上人が大漁すると言われた通り、高級なヤリイカが大漁し、船に積みきれない程になつていました。宮田さんは「本当に施餓鬼供養をするようになってから、今まで以上に漁をするようになりました。海や魚に感謝する心が、芽生える事ができました。海で船が故障したり、岸へ帰れなくなりそうな時もあります。が、お守りを握り御題目を唱えらると不思議と問題が解決するんですよ」と感慨深げに教えてくださいました。

小さな過疎地の漁村ではあるが、御題目の魂が、今日も本州最北端津軽の海で脈々と生きています。

「変化の人」

私は、北海道妙正寺聖徒団団長関龍雄と申します。

先日、日蓮宗新聞の「良縁の集い」成婚第一号の記事が載っていました。な

私も長年良縁が無く、良き伴侶を探し求めていた一人です。ですから成婚第一号という記事には、我が事のように嬉しく、喜びと感動を覚えた次第です。

私も五年前に知人の紹介で、ようやく御縁があり結婚致しました。当時父は、

九十六歳、母は、八十六歳でした。妻は十七歳も年下でありますので、心を合わせるのに大変苦労しましたが、こまかい所に良く気が付いてくれますので聖徒の皆様にも大変喜ばれております。昨年の暮れに他界した私の母を、五年間自宅で介護してくれました。一口に五年間といつても寝たきり状態ですのでも、妻にとつては、筆舌に尽くし難い苦労があつたと思います。その間、一つの愚痴もこぼさず、献身的に母の看病に徹して日合掌して感謝せずにはいられませんで

法華経の文の中に「変化の人をつかわししてこれがために衛

「祈り」『悟り』『行い』の教えを守り、実践して行く聖徒となりましょう。

聖徒は「不実なりとも智慧は愚かなりとも身は不浄なりとも戒徳は備わらずとも南無妙法蓮華経と申さば必ず守護し給うべし。」との大聖人様のお言葉の如く、現実に目に見える形で私共を守護して下さい。我が日蓮宗聖徒団の信仰と申せましよう。

コラム

路の益

親子断絶という言葉、これは困つた時代現象だ。わしらが小さい頃は素直に大人の言葉を聞いたんだが今どきの子供は中学、高校と成長するにつれ、親の言うことを聞かんといい。

わしらはそんなこと許すわけにはいかん。親はどんな馬鹿な親でも親は親。貧乏しても、育てたのはわしら親だ。まあまあ、親父さん、そう怒んなさんな。

今度の東日本大地震、津波、幸福な人々の生活を飲み込んでしまった。一瞬にして起きた地獄絵図だ。でも、世界の人が驚いたのは、秩序

を以て行動する日本人の姿だ。この災害の時、親子、家族断絶などなかつた。そうか。他の人への協力、家族愛、思いやり、いたわりなど日本人の心の中に残っていたんだ。親の躰の中にじつと培われていたんだよ。

よかつた。よかつた。新聞やTVなどメディアで、お寺の存在が大きくクローズアップされていた。みんなの心の支えにお寺がなつていたのである。親がお墓参りでお寺に行き、ご先祖様を大切にすることを子供は見ていたんだ。この伝統・習慣が日本人の心を蘇らせたのだ。

日頃から、もつと、もつとお寺と親しみ、家族の安らぎの場としよう。

宝蓮叢

俱生神月守。 靈断法の「案内」

◆人にはみなそれぞれ「人生」という道がある。しかしその道の先きはよくは見えず、地凶もない。この先には大きな河が横たわっているかも知れず、大岩が障害物となつていくかもしれない。人は誰もそれに気づかず「今」のみを飄々と歩く。そして河に阻まれ打ちひしがれ、大岩を前に愕然とする。◆私たち日蓮宗聖徒団には九識靈断法という秘法があります。◆これは俗に言う占いの類とは違い、日蓮大

聖人のお教えから生まれた有り難い秘法です。◆カーナビのように河や大岩など人生の中で進むべき道を阻む障害物を見通し、その迂回路を指示し目的地へと導いてくださいます。人事万般なんでもご相談ください。◆また聖徒団には俱生神月守という不可思議な御守があり、河の前には橋となり、大岩の前には梯子となり、困難を乗り越える力となつて護つて下さいます。◆難病を癒す不思議な護符もあります。◆充実した人生を歩むため、最寄りの聖徒団のある寺院、教会、結社へお出かけください。

日蓮宗靈断師会 会長 智雄 新聞 総局長 建 光行

東日本巨大地震救援募金ご協力をお願い

合掌 陽春の候 ご尊聖には為法為宗、ご精励の御事と存じます。

3月11日、日本全土を震撼させた巨大地震とそれに伴う大津波が東北地方を中心に発生いたしました。被災地の中に多くの本会聖徒団や聖徒の方の家庭があるわけにはいかないと存じます。本会として、できる限り救援の手を差し伸べることが急務であります。そこで、本靈断師会では窓口として、救援募金の振込口座を開設致しました。お志がおありの方は、多少にかかわらず、下記宛に浄財をお送りいただければ幸甚に存じます。

記

●郵便振替口座 「口座記号番号」 00190-3-358732 「加入者名」 日蓮宗靈断師会総務局財務部 救援募金担当 光枝 妙珠

東京都新島村本村3丁目1-4 TEL 04992-5-0111 FAX 04992-5-0111

◆開催日程

◆平成二十三年五月二十八日(土)・二十九日(日) 参加費一人五千円

◆二十八日夜八時より山門にて唱題修行を行います。

◆今回も唱題修行の際に灯す千燈供養の奉納を受け付けます。一燈二千円

◆二十九日の報告式の際に優秀聖徒の表彰を行います。

◆「変化の人」

◆私は、北海道妙正寺聖徒団団長関龍雄と申します。

◆先日、日蓮宗新聞の「良縁の集い」成婚第一号の記事が載っていました。な

◆私も長年良縁が無く、良き伴侶を探し求めていた一人です。ですから成婚第一号という記事には、我が事のように嬉しく、喜びと感動を覚えた次第です。

◆私も五年前に知人の紹介で、ようやく御縁があり結婚致しました。当時父は、

◆九十六歳、母は、八十六歳でした。妻は十七歳も年下でありますので、心を合わせるのに大変苦労しましたが、こまかい所に良く気が付いてくれますので聖徒の皆様にも大変喜ばれております。昨年の暮れに他界した私の母を、五年間自宅で介護してくれました。一口に五年間といつても寝たきり状態ですのでも、妻にとつては、筆舌に尽くし難い苦労があつたと思います。その間、一つの愚痴もこぼさず、献身的に母の看病に徹して日合掌して感謝せずにはいられませんで

◆法華経の文の中に「変化の人をつかわししてこれがために衛

◆「祈り」『悟り』『行い』の教えを守り、実践して行く聖徒となりましょう。

よるこび法話

四大法難の一つ、伊豆のご法難

北海道平取町 照恵寺 品田 祥皓

ばんにありました。しかし、大聖人は幸いにも漁夫の船守弥三郎に救われ、弥三郎夫妻の献身的なご給仕を受けながら、法華経をひろめて行きます。後一年ほどして流罪はとかれ、大聖人は鎌倉に帰りました。弘長三年二月二十二日のことです。

大聖人は弥三郎夫妻にあてたお手紙に「日蓮が父母の伊豆の伊東かわな(川奈)と云ところに生れかわり給か。」

「船守彌三郎許御書」とただならない感謝をお手紙に書かれておられます。

大聖人はなぜ多くの災難をお受けになられたのでしょうか。首を切られそうになったり、島に流されたり、命にかかわる大難に四度もあいました。このような大難を受ければ、だれもが尻込みし、静かになるはずですが。

しかし、大聖人はひとえにこのありがたい法華経をみんなに知らしめ、ひろめる道を選びました。日本国はもとより、全世界の人々を多くの災難から、迷いから救いたい一心に他ならないからです。災難にあつたに「私には法華経がある。法華経に護られている。」と、この法華経、南無妙法蓮華経を持ち、行い、護り、弘められたのです。

私たちは大聖人のご遺志を使命として、「私には法華経がある。法華経に護ら



蓮着寺 (れんちゃくじ)

れている。」と確信を持ち、生活して行きましよう。

私には法華経がある 法華経に護られている

先日、五十歳になるうかと言う女性がご主人と子供、自身の弟と来寺致しました。

話を聞くと祖父の葬儀の時、住職の説教を聞き、自分の母がどうなっているのか、不安になったそうです。母はその女性が六歳のころに弟を生んで亡くなりました。「母が亡くなった年を過ぎ、結婚し、子供を授かりました。今は幸せな生活をしています。母への感謝のきもちは忘れたことは無いのですが、供養も何もしたことが無い。供養してあげたい。」とのことでした。たしかに葬儀の時に見た女性でした。

葬儀の時は「回向功德抄」と言う侍従殿にあてたお手紙の中に書かれていた事を話しました。

「涅槃経に云わく。閻魔王は、ある死人の生前中の行為を考えた後、そのからだへ四十九本のクギを打った。目に二本、耳に二本、舌に六本、胸に十八本、腹に六本、足に十五本である。そのクギの長さは一尺(三十三センチ)もある。

ところがその死人には孝行息子がいて、父の菩提をとぶらうためにお坊さんをお迎えする為、お寺に行った。それを知った閻魔王は死人の足に打った十五本のクギを抜き取った。……」

供養するたびに閻魔王はそのクギを抜き取って、最後には、すべてのクギが抜かれ、死人はその苦しみから救われました。

「私たちは、父母の物をゆずられていません。それなのに死んでしまったから、見えないから、何もないだろうと後生をとぶらわなければ、悪霊となり、子々孫々にたたりをなす。」

故人を供養しないと苦しみのあまり、かわいひはずの子孫にも「たたり」をしてしまふ。故人に感謝し、供養する事は私たちの義務なのです。

この話が頭から離れなかつたそうです。この女性の母を供養したいとの思いは、「回向功德抄」のお話と同じです。供養の第一歩です。もしかすると祖父と母が教えてくれた事なのかも知れません。

みなさんご存じのとおり、大聖人は常に両親に感謝の気持ちをおもちでした。それはお亡くなりになるまで、母上の髪をふところに入れておられたことからもわかります。

南無妙法蓮華経を持ち、行い、護り、弘められたのは「私には法華経がある。法華経に護られている。」というその確信と「いつも母上がいっしょにいる。護って下さる。」と言う強い感謝の思いもあつたからだと思います。

いつまでも感謝を忘れることなく、供養を続けて欲しいと南無妙法蓮華経に女性の思いを乗せて、供養を行いました。わたし達は多くの諸天善神、大聖人にあたたかく見守られた中で生活しています。感謝の気持ちを忘れず、南無妙法蓮華経の信仰を致しましょう。

三月十一日、東北地方を中心に地震、津波で未曾有の災害が起こりました。多くの人が被災し、亡くなられた方々が沢山いました。お見舞い申し上げます。早い復興をご祈念申し上げます。

早い復興をご祈念申し上げます。

俱生神月守のご案内

俱生神月守お申し込み要項

新規お申し込み、及び、月守体数の変更については、事務手続上、毎月五日までに連絡をお願いします。

発送は、日蓮宗霊断師会総務局が担当していますので、お申し込み、変更等は直接ファックスで「〇九四四(六七)二九三〇」に、ご連絡ください。

*新規お申し込み、体数変更の場合

お申込み体数を明記の上、郵便番号、住所、電話番号、ファックス番号、送り先・寺院名(聖徒団)団長名、以上を「ご記入の上、〇九四四(六七)二九三〇」までファックス下さい。

四月発送分「五月月守」より、送料は無料となりました。振込用紙(日蓮宗霊断師会総務局宛、護持献金振り込み用)を同封します。俱生神月守と同時に送付します。護持献金は今までと同様の金額です。

月守りが毎月二十五日までに到着しない場合は、ご面倒でもファックスでお知らせください。確認いたします。よろしくお願ひ致します。

ファックス先 『日蓮宗霊断師会総務局』宛
ファックス番号 〇九四四(六七)二九三〇
問合せ先 〇九四四(六七)二九三〇「兼用」

お見舞い文

東日本大震災で被災にあわれた皆様そして亡くなられた方のご冥福を心よりお祈り申し上げます。今回の震災は、地震被害に加え、未曾有の規模の津波災害により多くの家屋が流され、多数の犠牲者を出した近年希に見る大災害となりました。被災地では、避難所を中心とした救援活動が進められ仮設住宅の建設なども進みつつあります。国会においても被災者救済・復興に向けた補正予算や法整備の準備を始めております。

この震災で、日本の建築物の優れた耐震性、逆境にも取り乱さず整然と生き抜く被災民の辛抱強さ、ライフラインの復旧の早さなど、日本人の美徳や技術水準の高さが世界に発信され賞賛されています。津波によって引き起こされた福島第一原発の事故災害が現時点でも放射能の封込めに成功していないことと、東電の電力供給力が電力需要をまかなっていかないことが今後の復興に大きな影を落としています。

原発問題や計画停電による消費の自粛とサプライチェーンの障害は、日本全国の産業活動全体に影響を与えており、ひいては世界経済全体が脅かされております。この3月末に、私は、中長期的な電力需給問題や計画停電の解消策を検討する自民党エネルギー政策合同会議の事務局次長に就任いたしました。日本人の美徳や能力をもってすれば、この困難を克服できると信じ、日本の復興に向けて全力で取り組んでまいります。皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。



参議院議員

佐藤ゆかり